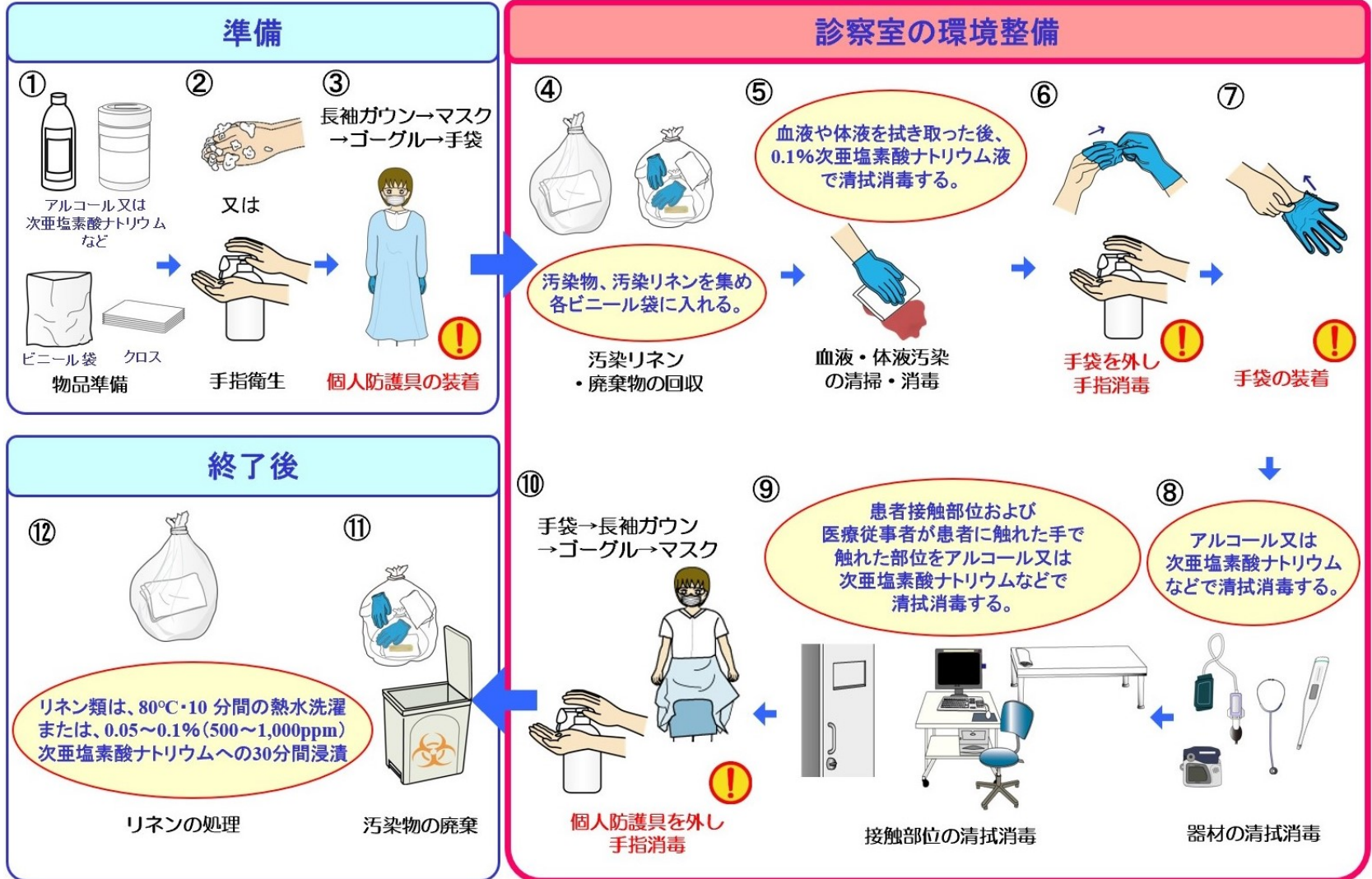


感染管理ベストプラクティス 実践事例紹介～与えられた施設的环境下でできる実践現場の最善策を目指して～

感染管理ベストプラクティス

一般医療機関外来環境整備 (COVID-19が疑われる場合)【例】

2020年3月2日時点



ベストプラクティス: 問題解決のための優れた実践例

❗ 赤字: EBMに基づき強く推奨されているところ

* 実践事例は、作成されたご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成されたものです。同じ手順であっても他のご施設にはあわない可能性を含んでいることをご理解いただき、このまま、各ご施設のマニュアルとして使用しないでください。それぞれのご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成しご利用になられることをお願いいたします。

感染管理ベストプラクティス 実践事例紹介～与えられた施設的环境下でできる実践現場の最善策を目指して～

感染管理チェックリスト

テーマ：一般医療機関外来環境整備（COVID-19が疑われる場合）

2020年3月2日時点

手順	感染管理のポイント	チェック	理由
1 物品準備	・清潔な清掃用クロス、洗浄剤を用意し、常に清潔に整えておく。		・汚染された清掃用具、洗浄液・消毒液は、病原体を環境表面へ伝播させる恐れがある。 ・清掃用液体(洗浄液)は毎日あるいは必要に応じて準備すること。施設の方針や規定に従って新しい液体と頻りに交換すること。(Ⅱ) ¹⁾
2 手指衛生	・流水と手指洗浄剤での手洗いまたは、擦式手指消毒用アルコール製剤で手指消毒をする。 ・手が目に見えて汚れている場合は、流水と手指洗浄剤による手洗いを。少なくとも15秒以上かけて手全体を洗い、十分に乾燥させる。 ・擦式手指消毒用アルコール製剤での手指消毒は全工程20秒以上かけて手指消毒を実施する。		・前作業からの手指の汚染を断ち切る。 ・流水と手指洗浄剤による手洗いは、病原体を減らすことができる。 ・擦式手指消毒用アルコール製剤での手指消毒は、適切な擦式手指消毒用アルコール製剤の量を使用することで手指に付着している病原体を殺菌することができる。 ・手指衛生を確実にすることにより交差感染のリスクを減らすことができる。
3 個人防護具の装着	・長袖ガウン、マスク、ゴーグル(またはフェースシールド、シールド付きマスク等)、手袋の順で装着する。		・血液、体液曝露による職業感染のリスクがある。 ・病室内の環境清掃を行うスタッフは手袋、サージカルマスク、ガウン、フェイスシールドまたはゴーグルを着用します。 ²⁾ ・血液その他の潜在的感染性物質、粘膜、損傷皮膚、汚染の可能性のある正常皮膚(便失禁や尿失禁の患者など)との接触が十分予想される場合は手袋を着用する。(I B/I C) ³⁾ ・処置および患者ケアにて血液、体液、分泌物、または排泄物との接触が予想される場合は、作業に適したガウンを着用し、皮膚を保護して衣服への付着(汚染)を防ぐ。(I B/I C) ³⁾ ・血液、体液、分泌物、排泄物の飛散が予想される処置やケアでは、眼、鼻、口の粘膜を保護するためPPEを着用する。作業内容から予想される必要性に合わせてマスク、ゴーグル、フェイスシールド、またそれぞれの組み合わせを選択する。(I B/I C) ³⁾
4 汚染リネン・廃棄物の回収	・血液や体液が付着した汚染物、汚染リネンを集め直ちに各ビニール袋に入れる。		・環境、備品等への汚染の拡大を防ぐ。
5 血液・体液汚染の清掃・消毒	・ペーパータオル等で血液・体液を清拭除去する。 ・0.1%次亜塩素酸ナトリウム液で清拭する。 ・使用したペーパータオルやクロス等は直ちにビニール袋に廃棄する。		・物の表面の消毒には次亜塩素酸ナトリウム(0.1%)が有効であることが分かっています。 ⁴⁾ ・汚染物の消毒:SARS・MERSコロナウイルスに対しては次亜塩素酸ナトリウムが有効である。 ⁵⁾ ・新型コロナウイルス感染症患者の体液や排泄物などの消毒には次亜塩素酸ナトリウムやアルコールを用いる。 ⁶⁾

* 実践事例は、作成されたご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成されたものです。同じ手順であっても他のご施設にはあわない可能性を含んでいることをご理解いただき、このまま、各ご施設のマニュアルとして使用しないでください。それぞれのご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成しご利用になられることをお願いいたします。

感染管理ベストプラクティス 実践事例紹介～与えられた施設的环境下でできる実践現場の最善策を目指して～

感染管理チェックリスト

テーマ：一般医療機関外来環境整備（COVID-19が疑われる場合）

2020年3月2日時点

6	<p>手袋を外し 手指消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作業後は直ちに手袋を外す。 擦式手指消毒用アルコール製剤で手指消毒をする。 全工程20秒以上かけて手指消毒を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 汚染した手袋で作業を続けると周囲環境に汚染を拡げる恐れがある。 手袋を外す時に手指を汚染する恐れがある。また、手袋のピンホールによる手指の汚染が考えられる。 患者や患者周囲の環境表面（医療器具を含む）と接触した後は手の汚染を防ぐ正しい方法で手袋を外す。同じ手袋を着用したまま複数の患者のケアを行ってはならない。再使用する目的で手袋を洗浄してはならない。この行為については病原体伝播との関連が認められている。(I B)³⁾ 患者のすぐ近くのもの(医療器具を含む)との接触の後には手の汚染除去を行う。(II)³⁾(I B)⁷⁾
7	<p>手袋の装着</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手袋を装着する 	<ul style="list-style-type: none"> 血液、体液曝露による職業感染のリスクがある。 病室内の環境清掃を行うスタッフは手袋、サージカルマスク、ガウン、フェイスシールドまたはゴーグルを着用します。²⁾ 環境清掃や医療器具の洗浄には使い捨ての医療用手袋または再使用可能な万能手袋を着用する。(I B)³⁾ 血液その他の潜在的感染性物質、粘膜、損傷皮膚、汚染の可能性のある正常皮膚（便失禁や尿失禁の患者など）との接触が十分予想される場合は手袋を着用する。(I B/I C)³⁾
8	<p>器材の 清拭消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> 患者に使用した体温計、血圧計、聴診器、パルスオキシメーター等をアルコールや次亜塩素酸ナトリウム等で清拭消毒する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関や高齢者施設、不特定多数が利用する施設内、濃厚接触者の自宅においては、アルコール清拭による高頻度接触面や物品等の消毒の励行が望ましい。⁸⁾ 新型コロナウイルスはアルコールに感受性を有します。高頻度接触部位、聴診器や体温計、血圧計等の器材などは、アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含有のクロスでの清拭消毒を行います。²⁾
9	<p>接触部位の 清拭消毒</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目に見える汚れがなくても、アルコールや次亜塩素酸ナトリウム等で清拭消毒する。 患者接触部位および医療従事者が患者に触れた手で触れた部位の清拭をする。 	<ul style="list-style-type: none"> SARS・MERSコロナウイルス（汚染物の消毒）：オーバーテーブル、ベッド柵、椅子、ドアノブ、トイレの便座、および水道ノブなどには、アルコール清拭で対応する。⁵⁾ 新型コロナウイルス感染症患者の体液や排泄物などの消毒には次亜塩素酸ナトリウムやアルコール（消毒用エタノール、70%イソプロパノールなど）を用いる。⁶⁾ 新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者や新型コロナウイルス感染症の患者、濃厚接触者が使用した使用後のトイレは、急性の下痢症状などでトイレが汚れた場合には、次亜塩素酸ナトリウム（市販されている家庭用漂白剤等はこれにあたります、1,000ppm）、またはアルコール（70%）による清拭をすることを推奨します。¹²⁾

* 実践事例は、作成されたご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成されたものです。同じ手順であっても他のご施設にはあわない可能性を含んでいることをご理解いただき、このまま、各ご施設のマニュアルとして使用しないでください。それぞれのご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成しご利用になられることをお願いいたします。

感染管理ベストプラクティス 実践事例紹介～与えられた施設的环境下でできる実践現場の最善策を目指して～

感染管理チェックリスト

テーマ:一般医療機関外来環境整備(COVID-19が疑われる場合)

2020年3月2日時点

10	個人防護具を外し 手指消毒	<ul style="list-style-type: none"> 手袋、長袖ガウン、ゴーグル、マスクの順で外す。 擦式手指消毒用アルコール製剤で手指消毒をする。 全工程20秒以上かけて手指消毒を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> マスク、ゴーグルまたはフェイスシールド、長袖ガウン、手袋などのPPEを脱ぐ際の手順に習熟し、汚染されたPPEにより環境を汚染しないように注意する。手指衛生を実施しないまま、自身の眼や顔面を触れないようにする。¹⁾ PPEを脱ぐ際に衣服や皮膚の汚染を避ける。(II)³⁾ 患者や患者周囲の環境表面(医療器具を含む)と接触した後は手の汚染を防ぐ正しい方法で手袋を外す。同じ手袋を着用したまま複数の患者のケアを行ってはならない。再使用する目的で手袋を洗浄してはならない。この行為については病原体伝播との関連が認められている。(IB)³⁾ 未滅菌手袋を脱いだ後は手指衛生を行う。(IB)²⁾ 体液あるいは浸出液、粘膜、正常でない皮膚あるいは創部ドレッシングに触れた後は手指衛生を行う。(IA)²⁾
11	汚染物の 廃棄	<ul style="list-style-type: none"> 搬送時に周辺環境へ汚染が拡散しないようビニール袋等に密封する。 感染性廃棄物として適正に廃棄する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療関係機関等は、国際的脅威となる感染症の感染性廃棄物の処理を委託する際に、「5.1委託契約」を踏まえ、性状や注意事項等の必要な情報を提供しなければならない。⁹⁾ 感染症法に規定される指定感染症に関し、使用後に排出される紙おむつについて、感染性廃棄物に該当する。⁹⁾
12	リネンの 処理	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境へ汚染が拡散しないように、汚染リネンはビニール袋等に密封して搬送する。 用手洗浄、消毒する場合は、ガウン、マスク、ゴーグル、手袋を装着する。 80℃・10分間の熱水洗濯または、0.05～0.1%(500～1,000ppm)次亜塩素酸ナトリウムへの30分間浸漬後に洗濯する。 	<ul style="list-style-type: none"> SARS・MERSコロナウイルス(汚染物の消毒):ベッドマット、毛布、シーツ、および下着などのリネン類に対しては、80℃・10分間の熱水洗濯が適している。ただし、熱水洗濯機の設備がない場合には、0.05～0.1%(500～1,000ppm)次亜塩素酸ナトリウムへの30分間浸漬で対応する。⁵⁾ 新型コロナウイルス感染症患者のリネンなどの消毒には熱水(80℃・10分間など)が最も適している。⁶⁾ 受託できる寝具類の範囲:1～4類感染症または新型インフルエンザ等感染症に汚染されているもの、もしくはそのおそれのあるものであって、病院において規定に基づいて定められた方法による消毒が行われていないもの以外。¹⁰⁾¹¹⁾

参考文献

1)	医療施設における環境感染管理のためのCDCガイドライン2003	7)	WHO 医療における手指衛生ガイドライン 2009
2)	日本環境感染学会 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第1版 http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=332	8)	国立感染症研究所 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 新型コロナウイルス感染症に対する感染管理(改訂2020年2月21日) https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9310-2019-ncov-01.html
3)	CDC 隔離予防策に関するガイドライン2007	9)	環境省 廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル(平成30年3月) https://www.env.go.jp/recycle/kansen-manual1.pdf
4)	厚生労働省 新型コロナウイルスに関するQ&A(医療機関・検査機関の方向け) 令和2年2月21日時点版 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html	10)	日本病院寝具協会 寝具類の消毒に関するガイドライン 6版 http://www.nbsk.net/wp/wp-content/uploads/shingu_guidelines_6th.pdf
5)	厚生労働省 感染症法に基づく消毒・滅菌の手引き2019 https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000417412.pdf	11)	厚生省健康政策局長通知 病院、診療所等の業務委託に関する規定 https://ikss.net/wp-content/themes/ikss/pdf/summary/summary2.pdf
6)	2020年版 消毒と滅菌のガイドライン	12)	新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)令和2年3月1日時点版 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever.qa_00001.html

* 実践事例は、作成されたご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成されたものです。同じ手順であっても他のご施設にはあわない可能性を含んでいることをご理解いただき、このまま、各ご施設のマニュアルとして使用しないでください。それぞれのご施設の資源・背景、方針や目的にあわせて作成しご利用になられることをお願いいたします。